

インターバンクの声（2015年1月27日）

事前の予想と全くかけ離れていれば衝撃的な結果だったのだろうが、ギリシャの総選挙は急進左派連合（SYRIZA）が予想通り第1党に躍進する議席数を獲得した。もう数議席で単独過半数を確保できるところだったが、さすがにそれは果たせず、急進左派連合と同じく緊縮策に反対する右派の“独立ギリシャ人（ANEL）”と連立を組むことになったようだ。“独立ギリシャ人”は欧州連合（EU）、国際通貨基金（IMF）、欧州中央銀行（ECB）のいわゆる「トロイカ」への反対色が急進左派連合よりも強いとされているようだが、急進左派連合のツィプラス党首も「緊縮と破壊の覚書、トロイカは過去のものになった」との宣言までしており、ECB幹部などが指摘しているようにギリシャの債務再編に問題はないとの見立て通りに事が運ぶのかどうかは不透明な状況だ。ギリシャの新政権が早くも主張する支援資金への一部返済免除も、今のところ欧州各国は受け入れないとする声が大勢だ。数年間はどうか耐えたギリシャ国民も、やはり緊縮策による景気低迷や失業率の高止まりなどへの不満が頂点に達した感もあるのだろう。やはり欧州随一のラテン系国民気質を持つギリシャ人だけに、この先とても楽観的には成れない。ユーロはまだ下がりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。